

## 「年間第3主日C」2022年01月23日「一緒に祈りましょう」

皆様、  
主の希望、信頼、平和のうちに、信仰はわたしたちの盾です。

01月23日は、「**年間第三主日C**」です。

今日、ミサに参加することが出来ない方々、一緒に心をあわせて、祈りましょう。

時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2022.01.23」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読 ネヘミヤ記 8.2-4a、5-6、8-10と、「答唱詩編」19 (18)、第二朗読 使徒パウロのコリントの教会への第一手紙 12.12-30と、ルカによる福音1章 1-4 節と4章 14-21節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い/共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

### I- 第一朗読 ネヘミヤ記 8.2-4a、5-6、8-10 について

捕囚時代後、ペルシア帝国の時、イスラエルはその帝国の一つの州でした。神の民の「生き残り」(1.3)のユダヤ人はエルサレムに戻りましたが、厳しい生活の状況に対して苦しんで叫びました。この叫びを聞いたネヘミヤと言うペルシア帝国のユダヤ人の高級官吏は「総督」としてエルサレムに派遣され、ユダヤ人を訪問しました。そしてエルサレムの安全を守る為に城壁を立て直す(1-6章)だけではなく、祭司エズラが律法の書をユダヤ人に読む機会を得ました。ユダヤ人は70年間の捕囚の影響で、ヘブライ語での神のみ言葉を聞く機会がほとんどなく、神の律法、特に「神の掟」を理解出来ない状態でした(8章)。それで祭司エズラは会衆の前に律法の書を開き、「次いで、レビ人が神の律法の書を翻訳し、(...)人々はその朗読を理解しました。(そして)祭司エズラは、律法の説明を(しました)」(8節)。「トーラ」(聖書の最初の5書)の朗読、翻訳、説明と言う流れは、「聖なる日」安息日に会堂(シナゴグ)で集まったユダヤ人への神のみ言葉を学ぶための典礼的な形となりました。イエスの時代にも、ナザレの会堂での安息日の集いは同じように行われました。(ルカ 4.14-20)

### II- 「答唱詩編」19 (18) について

神の教え、さとし、定め、言葉、裁き、...「すべて正しい。」という神の掟(十戒含む)・律法への感謝の詩編です。掟と律法は旧約聖書の民の生活のよりどころでした。新約聖書の民・教会・キリスト者たちの生活のよりどころは福音です。イエスは「わたしが来たのは、律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」(マタイ 5.17)と教えました。イエスは神の掟などの理解のし方を考え直しました。例えば、「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子(イエス)は安息日の主でもある」(マルコ 2.27-28)、また、「昔の人は「殺すな」と命じられている。しかし、わたしは言う。 (マタイ 5.21)、 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」... 「隣人を自分のように愛しな

さい。律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」(マタイ 22.37-40)とイエスは説明しました。

この詩編を祈りながら、私たちの生活のよりどころである福音に感謝しましょう。

### III- 第二朗読 使徒パウロのコリントの教会への第一手紙 12.12-30 について

使徒パウロは、コリント教会の信徒に、夫々の洗礼の時に受けた聖霊の賜物について話しています。主なメッセージは、どんな信徒たちも「キリストの体であり、一人ひとりはその部分です」(27節)し、重要な部分です。つまり共同体(ともに+おなじ+からだ)と言う父である神のファミリーはイエスの体の一部として一つの教会です。イエスの体である、私たちは、父である神の子供として平等に愛されて、互いに繋がっています。どんな小さな部分、教会のメンバ、活動、グループ、部会、など大切な一部です。「一人ひとりに霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです」(7節)。

### IV- ルカによる福音1章 1-4節と4章 14-21節 について

1章の1-4節について、福音史家ルカは使徒パウロの弟子でした。ユダヤ人ではなく、ギリシャ人のお医者さんです。12人の使徒たちのペトロとヨハネと出会った可能性もあると言われていています。ルカはいろいろな資料(マルコによる福音も含む)を集めて、内容を確認し、「順序正しく書いて」まとめて福音としました。テオフィロは一人の非邦人とか、または非邦人たちのシンボルと言われ、ユダヤ人ではない一人の洗礼志願者、弟子だと思われています。

4章14-21節について、福音と神のみ国が来ることを宣べ伝え始めたイエスは、故郷ナザレを訪問して、安息日に会堂(シナゴグ)に入り、当時のユダヤ人の集まりの式次第に従いました。イエスは神のみ言葉、預言者イザヤの巻物(書)の箇所を選び、「意味を明らかにしながら読み上げて」(ネヘミヤ記 8,8-10節)、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にした時、実現した」(21節)と説明/解釈しました。

イエスの福音、教えを弟子として実現したい私たちは聖書を読み、み言葉の意味を深め、福音を理解して、今の社会のために解釈することが出来ますように呼び掛けられているのではないのでしょうか。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「喜びの源である神よ、あなたは、主キリストのもとに集まる私たちに、救いの福音を聞かせて下さいます。今日は聖なる日、神の語られる言葉が実現する日。あなたに感謝するこの集いが、わたしたちの生きる力の源となりますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。

**2023年を向かって、シノドスのための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)**

## シノドスのための祈り Shinodosu no tameno inori

「ともに歩む教会のため ー交わり、参加、そして宣教 ー」

« Tomoni ayumu kyôkai no tame - Majiwari, Sanka, soshite Senkyô - »



聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、Seireiyo, watashitachiwa anatano maeni tachi, あなたのみ名によって集います。Anatano minaniyotte tsudoimasu.

わたしたちのもとに来て、とどまり、watashitachino motonikite, todomari, 一人ひとりの心にお住まいください。hitorihitorino kokoroni osumaikudasai.

わたしたちに進むべき道を教え、Watashitachini susumubekimichi o oshie, どのように歩めばよいか示してください donoyôni ayumeba yoika shimeshitekudasai

弱く、罪深いわたしたちが、yowaku, tsumibukai watashitachiga,

一致を乱さないよう支えてください。Itchi o midasanaiyô sasaetekudasai.

無知によって誤った道に引き込まれず、muchu niyotte ayamatta michini hikikomarezu, 偏見に惑わされないよう導いてください henken ni madowasarenaiyô michibiitekudasai

あなたのうちに一致を見いだすことができますように。Anatano uchini itchi o miidasu kotoga dekimasuyôni.

わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け watashitachiga eienno inochiheno tabio tsuzuke 真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。shinri to seigino michi o mayowazuni ayumu kotoga dekimasuyôni.

このすべてを、kono subete o,

いっどこにおいても働いておられるあなたに願います。Itsu dokoni oitemo hataraitte orareru anatani negaimasu.

御父と御子の交わりの中で、世々としえに。アーメン。Onchichi to onko no majawari no nakade, yoyo tokoshieni. Amen.